

2010年3月期(2009年度)第2四半期決算説明会における質疑応答

- : 質問

→ : NECの回答

* 前回予想とは、7月30日(第1四半期決算発表)時点の予想です

質問者 A

- NECエレクトロニクスとルネサス テクノロジーの統合新会社への増資額の追加について教えてください。

→ NECエレクトロニクスとルネサス テクノロジーの統合基本契約には、NECエレクトロニクスの上期業績に応じて、統合新会社が増資額を変更する条項が含まれています。これにより、NECに割り当てられる金額は、当初想定していた500億円から、今回、60億円強増えることとなりました。今後、その金額が変わることはありません。来年度以降は半導体新会社が自立した形で経営していくこととなり、親会社からの新たな資金支援は行わない予定です。

- 通期の営業外損益予想が前回予想から200億円改善していますが、なぜですか。

→ 上期の営業外損益は、支払利息改善など複数の項目で計画に対して100億円程度改善しました。下期もこれらが継続すると想定し、通期では当初の計画に対して200億円程度の改善を見込んでいます。

質問者 B

- クラウドによる自社基幹システムの再構築の進捗状況を教えてください。また、それによって、どれくらいのコスト削減につながるのですか。

→ グループ企業を含めて共通的に効果が出るのは、会計、資材、販売の領域です。会計についてはこの9月末で完成し、現在試験をしている段階です。来年1月から、実データを使った現行システムとの並行運用を開始し、4月から新システムに切り替える計画です。販売と資材についてはその半年遅れで進めています。1年前の想定より半年程度前倒しされています。

→ 今年度のIT関連費用は、前年度に比べて200億円以上削減しています。

- 自動車向けリチウムイオン電池事業についての考え方を教えてください。また、今後、この事業への追加投資計画はありますか。

- NECは、自動車向けリチウムイオン電池のキーパーツある電極について、責任を持って投資、生産および供給をしていきます。電池本体は、日産自動車と当社の合弁会社であるオートモーティブエナジーサプライで生産します。NECは同社に49%出資しています。
- NECの電極は当面は国内で集中生産し、技術や設備を改善し、コストダウンを進める方針です。
- なお、当面の所要については、すでに設備投資を行いつつあります。今後、投資額が大きく増えていくとは考えていません。
- パソリンクの状況について教えてください。
 - 競争激化や価格水準の低下などにより、今年度の売上高予想は前回予想から減少する見込みです。しかしながら、まだNECは競争力を維持していると考えており、この事業が海外向け通信事業の柱の一つであることに変わりはありません。
- 来年度以降、NECエレクトロニクスが連結対象子会社から外れることで、バランスシートはどのようになりますか。
 - 自己資本比率、D/Eレシオが改善し、財務基盤が強化されると考えています。

質問者 C

- ITサービス事業は通期の売上高予想を前回予想から変えていませんが、下振れのリスクはありますか。
 - ITサービス事業の今年度売上高予想については、前回予想時から前年度比でマイナス5.4%と保守的に見込んでおり、その想定で推移していると考えています。
- 前回予想比で、今年度の当期利益予想が変わっていませんが(実額100億円)、この前提を教えてください。
 - 前回予想比で営業利益は400億円悪化しますが、営業外損益が200億円、特別損益が200億円それぞれ改善し、当期純利益は変わらない見込みです。特別損益は、不要資産の整理や特別損失の圧縮により改善する見込みです。
- 政権交代による業績の下振れリスクはありますか。
 - 補正予算の執行停止の動きもあり、動向は注視していかなければいけないと考えています。個々の商談で見れば影響は多少あると思いますが、利益への影響はそれほど大きくないと考えています。補正予算見直しと言っても、本当に必要なものはなくならず、その件数は多いのではないかと認識しています。

以上